

### 北国街道なら私たちにおまかせください!!

「ここは、江戸時代の北国街道が残されている唯一の場所です。」一歩足を踏み入れると、時代を切り取ったかのような風情ある杉並木が続く、かつて新しい文明を運んできた古(いにしえ)の道が現れます。

西蒲区の北国街道の魅力を広く発信しようと、平成二十五年には「西蒲区北国街道まち歩きガイド」が発足し、今、静かなブームを見せています。

現在の会員数はシニア層の二十一名。年間六百人を超える参加者との出会いを大切にして、街道沿いの風景・文化・歴史をひも解きながら約2時間のコースを楽しみます。

なかでも、昨年は、松野尾(弥彦間十六キロ)の行程を三回に分けて挑戦した「北国街道で弥彦参り」のコースは圧巻のパフォーマンスで好評を得ました。春を迎え、街道沿いに佇む石仏も訪れる人々を静かに迎えてくれています。私たちと一緒に西蒲の魅力発見の旅に出てみませんか!

■北国街道まち歩きガイド  
申込み問合せ  
新潟市若室観光施設いわむろや  
(0256-256-1811)〇六六  
■参加費 一人五百円  
■時間 一時間半〜二時間  
■コース 六コース設定  
■一人〜団体まで可



北国街道とは、佐渡で採れた金を江戸に運ぶ道として、江戸幕府によって整備された脇街道です。中山道の追分宿(軽井沢)から上越、出雲崎、佐渡へと渡る道でしたが、やがて、北前舟による日本海運通が盛んになると、新潟から赤塚、稲島、岩室を経て弥彦、出雲崎へと続くかつての「北陸街道」も「北国街道」と呼ばれるようになりました。

### 広報部会を振り返って

広報部会では、区民の皆さまから西蒲区自治協議会の活動をご理解いただくため、平成26年度から「じちきょう」というタイトルで広報紙を発行しています。今年度は第5号と今回の第6号を発行しました。

自治協議会の活動は広範囲にわたりますので、その内容をていねいに知らせることと、記事に合った写真を取り入れることを心がけてきました。今後もメンバー一同、読んでもらえる広報紙となるよう頑張っていきます。

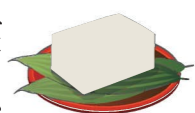


(挿し絵協力:吉井 美央)

### ●ホットとコーナー

#### てのひらの豆腐の光る春隣

亜真李



「木綿と絹を一丁ずつ、ください」「はい。絹と木綿と一丁ずつね」移動販売車の豆腐屋さんの声は明るい。豆腐は、かつて母がしていたように手の平の上に載せ、賽の目に切る。今日は台所の窓辺の日差しも濃くなり、もう春も近い。陽を受けて、豆腐はしっとり光っている。賽の目の豆腐を沸騰した鍋に落とし入れ、味噌汁が出来上がる。おお、なんと味の濃い、おいしい豆腐でしょう。ささやかな幸せ! 私が子供の頃、豆腐はご馳走だったものだ。村に一軒の豆腐屋に行くのは子供の役割。手作りの豆腐は店の大きな水槽に沈んでいた。店主がやさしく掬い上げ、鍋に入れてくれたつけ。嬉しく帰る細道は、草が萌え出して、もう春がそこまで来ていたなあ。

#### 募集します

●「ホットとコーナー」と「皆々まの声」  
◆詩、川柳、お子さまやペットの写真など、自分が「ホット」するものを、タイトルや一言コメントを添えて投稿してください。  
◆また、地域に関する課題などで、自治協議会で協議してもらいたいことがありましたらご意見をお寄せください。◆いずれも事務局(広報紙第一面に掲載)まで、住所・氏名(ペンネームがあればペンネーム掲載)連絡先をお書き添えの上、郵送または電子メールにてお送りください。

#### 編集後記

自治協議会の取り組みを皆さまからご理解いただくため、広報紙「じちきょう」を作成しています。皆さまからもご意見などをお寄せください。

### 想　　う　　鈴木 勝

時代背景の変革に伴い少子高齢化時代を迎えました。私たち地域にも、地域福祉行政問題をはじめ様々な環境の変化が考えられます。

平成の大合併指導に伴ない、我々も未来志向を考えて政令指定都市とその効果に期待しました。そこで、高度で広範多岐にわたる行政サービスを効率的に行い、自主的・自立的なまちづくりを進め、それらを創造、創出するために各区に自治協議会が設立されました。

西蒲区自治協議会も行政機関と一体化を図り、来て、見て良かった西蒲区、住んで良かった西蒲区、住みたい西蒲区の創出、創造に努力してきたところです。戦後七十年を過ぎ、急速に時代変化、改革が進んでいます。

合併から十余年、ひと昔を超えてまだ非合併論者もいるような厳しい時代に入っていますが、皆さま一人ひとりが手を繋ぎ、知恵を出し、汗を出して、区づくり、地域づくりに参画いただけるようお願いしたいと思います。



第5期副会長 鈴木 勝 (3月末退任予定)



題字 小林 眞由美

#### [ 第6号 ]

平成29年3月15日発行

発行 西蒲区自治協議会

編集 西蒲区自治協議会広報部

事務局 西蒲区役所地域課

〒953-8666 西蒲区巻甲2690番地1

TEL 0256-72-8156

FAX 0256-72-6022

E-mail chiki.nsk@city.nigata.lg.jp



豊かな自然 豊かなこころ 西蒲区



### 自治協議会の回想

大倉 繁宏

平成二十三年四月二十五日、巻地区まちづくり協議会所属のコミュニティ協議会代表の第一号委員として、巻地区公民館での西蒲区自治協議会に初めて出席しました。当初は二期四年が任期だったのですが、第五期から、第一号委員はもう一期任期が伸ばされ、結局三年間の六年を委員として務めさせていただきました。

その最後の二年は会長をさせていただきました。時には議論が続出し收拾がつかず、立ち往生をする場面もありました。その中で、微力ではありましたが、精一杯努めたつもりです。印象に残っていることに、今年度十一月八日に洪水対策施設や排水対策施設の視察を行いました。十一月二十五日の第八回区自治協議会で、施設視察に参加した委員全員に



第5期会長 大倉 繁宏 (3月末退任予定)

感想の発表を求めました。その内容が多岐に渡っており、感慨深いものでした。自治協議会委員として最初の二年間の常任部会は総務部会、続いての二年はまちづくり産業部会、最後の二年は保健福祉部会と二年ごとに部会所属が変わりました。まちづくり産業部会の時、「西蒲区観光振興事業」として巻駅前の観光案内板の変更改修を行いました。駅を利用するときに、その前を通るので、すが、ああ、あのとき作ったのだなあと、通るたびに思うことでしょう。

結びになりましたが、西蒲区自治協議会の第六期からの委員の皆さまのご活躍により、西蒲区がより良いい区になりますよう、お祈りいたします。有り難うございました。

## 第5期西蒲区自治協議会を振り返って

西蒲区長 大上 喜彦

月日が過ぎるのは早いもので、赴任から三年が経とうとしています。自治協議会との関わりで印象に残っていることについてお話ししたいと思います。

それは、平成26年3月28日に、当時の自治協議会において公募区長として自己紹介した際のことです。委員の皆様の実情にかなりたじろいだことを記憶しており、その真剣な表情から「地域の住民自治」に対する強い意欲を感じました。

新潟市は、全国の20政令市の中でも自治基本条例を制定し、その中に「コミュニティ協議会」も位置付けるなど、理想的な住民自治の制度となっています。

今後も自治協議会において、少子高齢社会への対応など地域の課題について、委員の皆様一人おひとりが自らの課題として真剣に受け止め、課題解決に向けて議論するなど、全国に誇れる「人に優しい住民自治」を目指して頑張りたいと考えています。



## 自治協議会 各部会の活動を振り返って

### 総務部会

にしかんの活性化に向けて、魅力のPRや再発見に取り組むため、昨年から区が実施している小学生による「西蒲Theミッション」を後押ししたり、区教育ミーティングで地域と学校とのかかわり方について真剣に議論しました。来期も子どもたちの未来に期待しながら、目標に向かって粘り強くやり抜く努力をまいります。



部会長 永塚 均一郎

### 保健福祉部会

高齢者等見守りキーホルダーの作成をはじめ、子育てに関する講演会や婚活イベントの開催など、地域課題の解決に向け、事業に取り組んでまいりました。このような私どもの取り組みは、即効性はありませんが、西蒲区のまちづくりの一助となり、今後の更なるまちづくりの推進に繋がるものと感じております。どのような効果が現れるのか見守り続けたいと思います。



部会長 長井 正雄

### まちづくり・産業部会

各地区の祭りほか、名産品、イベント紹介を目的にHOT! Nishikan四季彩国スタンプラリーを開催しました。賞品は、岩室温泉宿泊券ほか地元産蔵元の酒、果物、お菓子など地区および名産品の紹介が出来たものと思います。29年度は各地区の写真を集めるフォトラリーを実施し、抽選などで各地区名産の賞品を用意いたしますので奮ってご参加ください。



部会長 渡辺 宜昭

11/8

### 西蒲原土地改良区を訪問

自治協議会委員 視察研修

今回の研修先は、時々その名は耳にするものの実態はよくわからない「土地改良区」。西蒲の治水を学ぶ半日ツアーです。子供の頃は遠足大好き、長じても旅行・研修(但し座学は除く)と聞けばウキウキ、ソワソワ。勇んで出発です。

さて、当日は事業展示室、中央管理所の他、排水対策施設を鑑賞、樋曾、新川の順に訪ね丁寧な説明を受けました。土地改良区本所では西蒲原の治水の歴史をビデオで学び、オペレーションルームではリアルタイムに各所を遠隔操作する様子も見学できました。また、現場の排水施設では巨大なポンプ内部に入り込む体験などモニター画面からは得られない臨場感にチョット興奮。身近な施設の歴史やその能力にワクワク、ドキドキしながらもしっかりと学んだ「大人の社会見学」でした。



※当日は記事の場所のほか、蒲原大堰・中ノ川水門の視察も行いました。

12/11

### 地域ミーティング

健康寿命の延伸に向けて

市長から新潟市の主要な施策の説明があり、その後意見交換を行いました。当日参加した真島委員から感想などを記事にしてもらいました。

#### 元気な姿で長生きを

～高齢者の健康をまもり、車の運転事故をなくそう～

自治協議会委員 真島 彰夫

人は皆、年を重ねても元気な姿で人生を楽しみ、幸せを感じて暮らすことができればと願っています。高齢になると瞬時の判断や身体能力が低下し、思わぬ大きな事故につながる可能性があります。高齢者の運転ミスが原因で、死傷者が出るなど重大事故が発生しています。また、重大事故にならなくても、高速道の逆走や運転操作を誤って建物に突っ込むなどの事故も発生しています。

心配されるのが、認知症と車の運転との関係であり、二〇二五年には五人に一人が認知症になるという推計があるといわれています。現在、公共交通の空白地では、車なしで生活ができないという事情から運転免許証を返納したくても出来ない状況にあります。

一番の課題は、高齢者が免許証を返納した場合の移動手段の確保であり、対策としては、移動手段に小型バスを運行すること、通院や買物にタクシー券支給などの交通費を補助し、重大事故を起こさないように、早く免許証を返納できる環境づくりが必要ではないでしょうか。

また、認知症と事故との関連を考え、「頭と身体を同時に使う健康法」を積極的に取り入れ、認知症にならないための予防に努め、健康寿命の延伸につながる重要な要素として、市民が安心して暮らせるために、市の積極的な取り組みを願っています。



1/25

### 区教育ミーティング

地域と学校の連携による教育の推進について

参加者は、教育委員、学校長、図書館長、公民館長、教育行政担当者一三名と、自治協議会総務部会委員九名の、全員で二二名でした。大きな教育テーマに対し、意見交換は活発に行われました。話し合いの要点を次の三つでまとめました。

#### 《連携が進んでいる点》

- ・地域教育コーディネーターがうまく学校と地域を結びつけている。
- ・放課後学習、読み聞かせなど、公民館や図書館も教育支援をしている。

#### 《課題》

- ・教育環境作りは家庭の役割も大きいですが、学校教育だけに任せている。子供の育て方で、親同士が意見交換をする機会が少ない。

#### 《一層の連携に向けて》

- ・「いじめ問題」は本質を探ることが必要である。道徳、福祉教育などでそれを生じない人間力をつけていく。
- ・スクールバスの活用について。
- ・地域の教育力を生かすために「地域の茶の間」なども充分活用してほしい。

区公民館で、九分以上、岩室地区を越える教育ミーティングをした。

